

Title	中小貿易商社の経営分析
Sub Title	
Author	塚田総一 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第625号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0625

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

中小貿易商社の経営分析

本論文の目的は、わが国経済に重要な地位を占めながらも長期凋落傾向にある中小貿易商社を取り上げ、その経営分析を通じて成長する商社と成長しない商社とを分ける要因を探る事にある。文献、公表資料の分析を通してこの目的を果たそうとしたが十分な成果は得られず(附録2部～中小商社のダイナミクス～)、現実の事例研究を必要とした。

経営分析の対象企業として大阪・神戸の繊維の専門商社11社を取り上げた。これは経営管理の内容が最も直接的に成長や非成長という結果に繋がり易いと思われる衰退産業製品を取扱の中心とする商社で中小の定義に合致する企業を求めた結果である。これら11社の経営者及び管理者と面談し、そのインタビューの中より成長する商社と成長しない商社を分ける要因を探ろうとした。

分析の方法は既存の研究方法の枠組みには固執せず本論文用に独自に設定した。即ち経営者に代表される企業の意思決定、とりわけ環境の変化への対応策に関する意思決定と経営成果との関連を中心に置き、その意思決定の背景を成すサブシステム、即ち環境の変化を知覚する段階、対応策を決定する段階そして実際に実行する段階という各段階の中で重要な要因は何か、更にその要因を重要ならしめている基本的な経営者或いは企業の意識の違いは何か、これを以て成長と非成長を峻別する原因として説明を試みた。

分析の結果明らかにされた結論は企業の成長、非成長を峻別する要因は環境の変化に対する経営者の考え方の違い、それに伴う対応策の違いであり、さらにはそれら考え方の根幹を成す経営方針にあった。即ち、成長企業に共通する成長の要因は、その環境観が流動的で変化すべきものであり従って企業も、その変化に対応する為思い切った変化をすることを経営方針として取り入れているのであり、一方成長しない企業の要因として共通するのは環境の変化を頑なまでに認めようとしないという点であった。